

フットサルの面白さ体感

北斗高等支援
学校で教室

【北斗】北斗高等支援学校(進藤仁校長)で15日、フットサルリーグ・エスポラーダ北海道の元選手を講師に招いたフットサル体験授業が行われ、1、2年生27人が運動の楽しさを体感した。

一般財団法人「小野寺眞悟障がい者スポーツ振興

会」(札幌)が実施する、フットサルスキルアッププロジェクト(指導員派遣事業)の一環で企画された教室。社会福祉法人「明日佳」(札幌)のフットサル事業担当者で、同チームで6シーズンプレーした吉田順省さんが来校した。

吉田さんは冒頭のあいさつで「フットサルの楽しさを伝えるために来ました」「悟障がい者スポーツ振興」と述べ、生徒たちに気さくに声を掛けたり、笑いを誘うなどしながら指導。生徒たちも遊びやゲームの要素を交えたドリブルやシュートに笑顔で取り組んだ。

後半はチーム対抗で試合をし、生徒たちははつらつとした表情でプレーしていた。

(鈴木 潤)



吉田さん(左端)の指導を受けながらフットサルの基本練習に取り組む生徒